

## 事故の責任を労働者に押しつける

# ブラック事業計画弾劾！

### TTSの平成28年度「ブラック」事業計画（項目）

- 1 TTS命を守る考動～究極の安全に向けて～
  - ①安全風土の醸成・自ら考え行動する風土づくり
  - ②くり返し発生する事故ゼロへの取り組み
  - ③作業実態とルールの乖離の改善・ルールの見直し
  - ④安全意識向上の取り組み
  - ⑤基本動作の徹底
  - ⑥安全教育の充実
- 2 サービスの改革
  - ①お客様の視点に立ったサービス品質の向上
  - ②JRグループ一体となったサービス施策の推進
- 3 清掃品質の改革
  - ①清掃技術向上
  - ②清掃マニュアルの整備
  - ③コストダウン（生産性・効率性の向上）
  - ④安定輸送への貢献
- 4 構内・車両検修のレベル向上
  - ①教育内容・手法等の改善
  - ②効率性向上
  - ③グループ全体最適への取り組み
  - ④計画的な採用と養成
- 5 収入の拡大に向けて
- 6 働きがいの向上・人材育成と企業風土づくり
  - ①現場力と本社力の強化
  - ②経営基盤の強化・持続的成長
  - ③改善活動の推進
  - ④プロパー社員の育成
  - ⑤人材の確保
- 7 地球環境への取り組み
- 8 ICT・新技術の導入
- 9 地域社会への貢献



TTSの広報『からっ風』4月号に、「究極の安全に向けて」などとする事業計画が掲載されました。許せないのが批判したいと思います。

### ■安全を破壊しているのは誰なのか？

いまJR東日本で最大の問題になっているのが、安全の崩壊です。この最大の原因が、鉄道業務の全面的な外注化による人員削減、コストカットにあることは、JR自身も認めざるを得ない事実です。労働者がやろうとしていることは、

労働者をばらばらにして劣悪な環境で人手も大幅に減らしたことによってJR東日本グループは4000億近くの莫大な利益を上げています。その一方で、まさにそのせいで事故が激発しているのです。

### ■安全を破壊しているのは誰なのか？

相次ぐ電力関係の火災事故も、電力業務の外注化や人減らし、検査周期の延伸などコストカットを目的とした合理化がその最大の原因です。ところが、JRとそれ

安全対策を第一の課題としながら、その原因である外注化や合理化を反省するのではなく、「安全風土の醸成」とか「ルールの遵守と周知徹底」とか「安全意識の向上」「安全教育の充実」など現場労働者にさらに負担を強化することを安全対策だとしているのです。

これは事故の原因は、合理化にあるのではなく、現場の労働者の確認不足や不注意、安全意識の低下にあるのだという考えであり、事故の原因と責任を現場の労働者になすりつけると

んでもない態度です。

### ■合理化をやめて人を増やせ！

しかし毎日きつい労働が続く中、十分休みも取れないで安全に仕事ができるでしょうか？

普通なら問題なくできることも、疲れていれば手が滑ったり、転んだり、少しのミスで命に関わるような事故になりかねない仕事はJRには山ほどあります。それが少ない人員で、最低賃金で、休みの日にも突如の電話で呼び出され、満足な暮らしも出来ない状態で、どうしてちゃんと安全な仕事ができるのでしょうか？

なにより安全を守るには、余裕のある人員を配置すること、健康で文化的な生活が出来る最低限の労働条件を保障することです。そんな状態を解消しないで、いくら安全教育をされても何の解決にもなりません。

TTSの事業計画は、JRの安全崩壊を加速し、その責任を現場労働者になすりつけるブラック計画そのものです。

### ■「コストダウン」が「清掃品質の改革」？！

しかもさらに許せないのは、「3 清掃品質の改革」の項目

の3番目に、なんと「コストダウン（生産性・効率性の向上）」があげられているということです。

その中身は「効率的な作業ダイヤの検討・実施」と「契約に基づく清掃作業、完全履行の指導」となっています。

新人研修のとき、「契約なんだからちゃんと清掃しろ！それがコンプライアンスなのだ！」などと説教しながら、労働者が「人手が足りないから全部は無理だ」と言っても聞く耳持たない運輸事業部S次長。作業ダイヤに次から次へと詰め込みながら、現場に

「できませんよ」と言われると「適当に片づけておけばいい」と言い放つK事業所管理者。倒れるまで働け、ということなのです。実際に何人も倒れています。冗談ではありません！

もっと駅や車両をきれいにするためには、もっと人が必要なのに、人を減らすことが清掃の品質をよくすることだなんて！ しかも賃上げは断固拒否なのです。まさにブラック企業でしか思いつかない発想です。こんな方針を許していたら、私たちは殺されてしまいます。

### ■移動中のモップがけ問題は その典型だ

私たちは前回の団交で、現在の籠原の作業ダイヤと人員配置では、安全上許されない移動中のモップがけが常態化していることを具体的に示し、人員を増やすことを要求しました。

これに対してTTSが言ったことは、「移動中のモップがけはだめだ」「しかし新たに人を雇って遊ばせるわけにはいかない」だから「人は足りている」「現状で問題ない」というものでした。

じゃあどうやってダイヤ通りに清掃すればいいのかわからないのか？  
すべての矛盾を現場労働者に押しつけて平気な顔をしている。こういうあり方が事故を生み、清掃品質を下げることはないのか？ このデータは現実こそ、TTSの事業計画の破綻性と命よりも金儲けの本性を示すものです。

■ストと団交で乗客と私たちの安全を守ろう！  
生活できる賃金をかちとろう！

籠原駅の炎上事故についても、JRはいまだに「調査中」

だといって逃げつづけています。まさに「精査中」と逃げ回る舛添都知事と同じペテン師のやり口です。こんな会社に公共交通機関とか安全とか語る資格などありません。命よりも金儲けというブラック企業JRの本性を暴き、安全を守ることが出来るのは、私たち現場で働く労働者だけです。

もっと大きな事故で人の命が失われてからでは遅いのです。

共に闘いましょう！  
団結  
しましょう！

人が足りないから  
間に合わないよ～

移動中のモップがけは危険だな！

雨の日のぬれモップはキツイな～

